

市長の姿勢が問われています。

ふれあいバス・ふれあいタクシーについて、病院や買い物、通学など日常生活にとって欠かせない移動ができないと、市民の方から切実な要望がたくさん寄せられています。

リニューアル後の利用状況は、鶉沼線の利用が一番多く、次いで蘇原線です。この2コースの特徴はほぼ一時間に一本の割合で走っていることです。蘇原線はきちんと一時間に一本走り、毎時間、同じ「何分」で決められていて覚えやすくなっています。こうしたところは利用者が増加しているのが分かります。

一方、朝夕2便しかないコースや、東西線や川島線、那加線は4〜6便とあまりにも少なく、利用者も少ないのは当然です。だからこそ市民のみなさんから不便で利用できないという声が多数寄せられているのです。

こうした結果からも、分かるように一時間に一本走らせれば利用者は間違いなく増えてきます。どの地域でも一時間に一本走らせ、生活の移動を保障することが必要です。市の考えをただしました。

市は、今ある車両数を最大限活用し、乗り継ぎ時刻の調整などを行いながら充実を図ると答弁しました。

再質問で一時間に一本走らせるためには何が必要なのかと質問しましたが、市民懇談などで作り上げてきたふれあいバス事業であり、すぐにできることから取り組んでいくと答弁し、質問には答えませんでした。

関市では3億円をバス事業にかけています。これは一般会計に占める割合は8%です。各務原市も関市並みに引き上げれば3.8億円です。(現在1.5億円)

ふれあいバス年間利用状況 (H27.10~H28.9月平日)

主な路線	一日の便数	利用者数	
鶉沼線	9便 10便	41,578人	ほぼ1時間に1本
蘇原線	11便 12便	40,319人	きっちり1時間1本
川島線	4便 5便	24,572人	約3時間に1本
那加線	5便 6便	26,594人	2時間半に1本

原発ゼロ法案成立させよう

世論と運動を活発に！

原発再稼働の加速を狙う安倍晋三政権や電力業界と、市民との対決が2018年も激しくなります。東京電力福島原発から原因究明も尽くされず、事故収束の見通しもたっていない。この間多くの原発が停止していても電力は足りており、原発がなくても日本は十分にやっつけていけることが証明されています。安倍政権が原発推進に執着するのは電力会社の利益を最優先にしているからです。

小泉純一郎、細川護熙両元総理が顧問を務める民間団体「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)」が、運転中の原発停止、再稼働させない、2050年まで全電力を自然エネでまかなうなどの「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」を発表しました。

この法案を成立させるために世論と運動がますます重要です。毎週金曜日、市民公園で18時から「さよなら原発各務原」続けています。暖かい恰好をしてぜひお集まりください。心が温まりますよ。



今年も駅頭から訴えます。よろしくお願ひいたします。

1月9日今年初めての那加駅前での宣伝行動を行いました。まだ暗い時間帯でしたが「水脈」をお配りし、訴えも行いました。

仕事先に向かわれる方や学生さんなど足早に電車の中に吸い込まれていきます。

今年も市政報告や国政の問題、市民運動など広くみなさんにお訴えをします。ぜひ耳を傾けていただき、ピラも手にとってお読みいただけたらと思います。

ご近所のみなさんにもご理解とご協力に感謝申し上げます。

そしてご意見ご要望などもお寄せ下さい。



那加駅前で行街する
ハタノこうめ市議会議員

